

2024.06.26

令和6年度定時総会 会長挨拶

(一社) 全国技能士会連合会会長 大関東支夫

暑い中ご苦勞様です。

まずは報告とお礼です。新年早々、石川県能登で大きな地震がありました。ただ同情していても力にならないと考え、全国技能士会連合会として義援金をお願いしました。

締め切り日までに243万5千円、締切り後に40万5千円、計284万円。他に先行して集めていた(一社)東京都技能士会連合会が134万9千円。合計418万を超える義援金を(一社)石川県技能士会にお渡しすることができました。ご協力いただいた会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

本日は(一社)石川県技能士会から榎本会長、石川県庁から藤井主任がお礼に見えています。後ほど挨拶が予定されています。これからの震災復興のお手伝いに使っていただければありがたいです。

なお東京都から、来る8月2日から東京国際フォーラムで開催される、「匠の技祭典」に石川県の特別コーナーを設けて支援したい、という申し出がありました。東京都の担当課長が見えていますので石川県さんはお話に乗っていただけると有難いです。

ところで今回の総会は大変うれしい総会になりました。

昨年もお見えになりました厚生労働省安達参事官に加え、特別相談役田畑裕明衆議院議員と、のちほど見えますが特別顧問の堀内のり子衆議院議員がお忙しい中を駆けつけていただきました。こんなうれしいことはありません。

両先生には日ごろから技能士会のために多くのご尽力をいただいています。

去る6月7日に、「技能尊重と2028技能五輪国際大会招致の国会議員勉強会」を立ち上げていただきました。タイトル名はともかく私は技能士支援の会だったと勝手に受け止めています。参議院特別講堂で開催され、私もお招きを受けましたので20名ほどの技能士会の方々と参加し挨拶してきました。お手元に私の発言内容を配布しております。のちほどご覧ください。

私は技能士の役割を改めて申し上げた

- ① 技能士は日常生活に欠かせない人たちであること
- ② ものづくりの現場では柱になりダイナモになっていること
- ③ 災害が発生した際、復興の担い手になることです。

技能士が不足することは、日常生活の危機、ものづくりの危機、日本の国土国民を守る危機になることを強調しました。

私は歴史が好きです。現状をみると、悪い歴史は繰り返していることが分かります。

ウクライナとガザの戦争も悪い歴史です。悲惨です。ロシアもイスラエルも停戦を模索しているようですが、停戦後はガザ、ウクライナの復興が始まります。世界中からお金は集まります。しかし技能士のいない国は不幸です。技能士が集まりません。技能士がいなければ復興は遅れます。

日本の能登地震でも多くのボランティアが駆け付けてくれます。瓦礫の山がありますが、いずれブルトウザーで片付けることになるのでしょうか。しかしボランティアの中に鳶、大工、配管、電気、調理士等技能士がいたら展開が大きく変わっているように思うのです。日常生活も早まり、日本家屋は復元し、避難生活の食事も楽しいものになります。

私はイギリスとドイツの国の歴史に関心があります。

イギリスは産業革命を最初に起こした国です。いまどうでしょうか。ものづくり大国でしょうか。立派な大英博物館はありますが、殆どが植民地時代に集めた外国の作品ばかりです。いま世界の大国とは言えなくなっています。

ドイツは第一次世界大戦、第二次世界大戦と二回の大戦に負けましたが逞しく復活しました。これはマイスター制度にみられるように技能士を重要視する社会が確立されているからです。これからますます両国の経済力差は広がっていくように思います。

日本はどうでしょうか。第二次大戦で負けましたが廃墟の中から立ち直りました。多くの職人がいました。世界の冠たる経済大国になりました。

いまはどうか。東日本大震災、熊本地震、能登地震。何れも復興が遅れています。技能士が足りない兆候です。何れは日常生活に必要な技能士も足りなくなります。技能士会も頑張らなくてはなりません。

今日は1年の活動を決める重要な総会です。活発な議論をしていただき有意義な会にしていきたいと思います。有難うございました。



大関会長挨拶



田畑裕明特別相談役



堀内のり子特別顧問